

岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価票（概要）

<事前評価>

評価基準 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

課題名	「おかやま黒まめ」の高品質安定生産技術の確立				
総合評価	4. 2				
	5： 2人	4： 3人	3： 1人	2： 一人	1： 一人
助言・指摘事項等	<p>1. 岡山県特産の「黒まめ」について、品質低下要因である裂皮発生原因の解明、枝豆の高品質多収栽培技術の確立及びSMV抵抗性品種の育成を行う課題であり、いずれも研究・開発が必要である。</p> <p>2. JAの店舗で、裂皮粒の黒豆が多く見られた。規格外が2～5割は多すぎるので、至急検討する必要がある。実態調査を行い、原因を知ることは大事である。</p> <p>3. これらの課題を3年の短期間で解決するのは無理ではないか。</p> <p>4. 裂皮抑制技術の開発は重要であるが、発想を変えて裂皮粒を分別する装置機具の開発や加工で付加価値を与える技術開発等を他研究機関と共同で取り組んではどうか。</p> <p>5. 黒豆の需要の市場調査やブランドニーズの把握が必要ではないか。</p> <p>6. 岡山県内にとらわれず、広く遺伝資源を探索した方が良い結果がえられるのではないか。</p>				

課題名	集落営農の維持・発展にむけた支援方策の解明				
総合評価	4. 0				
	5： 一人	4： 6人	3： 一人	2： 一人	1： 一人
助言・指摘事項等	<p>1. 集落営農が成立する諸要因を解析し、集落営農の支援に役立てることは、地域農業の維持・活性化のため大変重要で長期的なテーマである。</p> <p>2. 集落営農の成功は、集落内における密接なコミュニケーションや農業教育に加え、生産物は国や世界展開を目指すブランド化に向けた栽培だけでなく、消費者との連携のもと主に県内の消費者ニーズを反映した品目や栽培法を採用すべきであると考え。これらにもきめ細かな支援方策を期待する。</p>				

課題名	昼加温とCO ₂ 施用による促成ナスの増収・品質向上技術の確立				
総合評価	4. 2				
	5： 1人	4： 5人	3： 一人	2： 一人	1： 一人
助言・指摘事項等	<p>1. 他品目では二酸化炭素施用効果は一定の知見が蓄積しており、増収が期待できる。さらに、昼28℃3時間加温とCO₂との併用により、ブランド品目のナスの収量を冬季に増加させる意義はある。また、カーボンニュートラルなシステムを構築する点や、設備費や燃料費等からみても所得向上につながる技術としても評価でき、普及が期待できる。</p> <p>2. 収量に加え品質面での検証が必要ではないか。</p> <p>3. 廃棄物等を再利用するなど代替燃料の可能性等、他研究機関とも共同して研究してはどうか。</p>				

課題名	イチゴ優良導入品種の栽培技術の確立								
総合評価	4. 2								
	5 :	1人	4 :	5人	3 :	—人	2 :	—人	1 :
助言・指摘事項等	<p>1. 優良品種を選び、耐病性を備えるイチゴ新品種の栽培技術を確立するもので、ブランド化を目指す上での意義は大きく、成果を期待している。</p> <p>2. 多品種ではダメなのか、なぜ品種を絞り込んで導入する必要があるか、意義を十分に検討願いたい。</p> <p>3. 優良品種それぞれの品種特性を引き出せる栽培技術（マンパワーや費用の壁があることは重々承知しているが）の確立や少し長期的な観点から岡山発の優良な耐病性品種の育成と知財化を是非願いたい。</p> <p>4. 栽培技術の確立が主目的であるが、内容は品種選定のようなので改善が必要である。</p>								

課題名	光環境の高度制御による切り花花きの低コスト栽培技術の確立								
総合評価	4. 0								
	5 :	—人	4 :	6人	3 :	—人	2 :	—人	1 :
助言・指摘事項等	<p>1. EOD照明や蛍光灯を用いた電照栽培技術の確立で、栽培期間の短縮や省エネなどの低コスト栽培ができ、農家収益の増加が期待される。</p> <p>2. 最初にEOD効果のある品目の選定と処理法を確立することが重要である。</p> <p>3. 遠赤色光の有効性が各品目で明らかになれば、波長域を絞込んだ高寿命、高輝度LED等の活用も検討願いたい。</p> <p>4. 本技術は、広範な作物／果樹にも利用可能で必要な技術と考えられるので、成果を期待したい。</p> <p>5. 普及の可能性及び普及可能面積について、一層の事前調査が必要である。</p>								

課題名	水田作における緑肥を活用した低投入型施肥技術の確立								
総合評価	3. 8								
	5 :	—人	4 :	5人	3 :	1人	2 :	—人	1 :
助言・指摘事項等	<p>1. 一昨年の石油類の高騰に伴う資材の高騰で農家経営が圧迫されたことは記憶に新しい。本課題では緑肥の効果を科学的に解明し施肥技術を開発するもので、環境保全にも貢献でき、成果が期待される。</p> <p>2. 緑肥に用いる植物種が異なると肥効が変わるだけでなく、それぞれの農地における土壌や土壌微生物相の違いなどの多くの要因によって作物での利用効率が大きく変化すると考えられる。そして、これらが施肥設計に強く影響すると想定されることから、新規性はあるが、難易度は高く、開発に長時間を要する課題と考えられる。</p> <p>3. 可能なら緑肥の種類と量、すき込みの時期と温度、土壌の種類などを網羅的に検討して汎用性の高い技術を開発し、さらに堆肥などの有機性肥料との併用も考慮に入れて技術開発をして欲しい。</p> <p>4. 開発する技術は具体的な施肥設計に活用するなど、将来の普及を見据えた計画として実施されることを期待する。</p>								

課題名	高冷地帯に適した果樹・野菜・花品種の育成・選定と栽培技術				
総合評価	4. 0				
	5 : 2人	4 : 3人	3 : 1人	2 : 1人	1 : 1人
助言・指摘事項等	<p>1. 高齢化、温暖化に対応できる高冷地に適した作目品種の育成と栽培技術の確立はブランドの創成だけでなく、県中北部の振興に重要な研究課題である。</p> <p>2. 高冷地に適した作目が例示されているが、気象変動や市場調査などを踏まえて、研究作目数を広げて検討した中から、ブランド化できる品目と特徴ある経営方式を生み出す機運が生まれることを期待する。</p> <p>3. 取り組むべき課題は非常に沢山ある一方、対応できる人員には限りがあり、苦労は大きいと思うが、頑張って成果を上げてほしい。</p> <p>4. 高冷地研究室として実施すべき課題が多いことは理解できるが、研究課題を評価する観点から、もっと絞った方がよい。</p>				

岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価票（概要）

<事後評価>

評価基準 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた 3：一定の成果が得られた
2：見込んだ成果を下回った 1：成果が得られなかった

課題名	疎植による水稲の省力軽労栽培技術の確立				
総合評価	4. 2				
	5： 1人	4： 4人	3： 一人	2： 一人	1： 一人
助言・指摘事項等	<p>1. 疎植にしても単位面積当たり収穫量が減少せず，作業労働軽減ならびに苗代などのコスト削減が可能になるので素晴らしい技術である。種子代や労働力軽減、また既存機具の活用等、今後の稲作経営にとって大変重要な知見が得られており、今後の普及や新たな展開も期待できる。</p> <p>2. 20年前から疎植栽培に取り組み、現在10aあたりに使用する育苗箱の数を12枚にまで減らしている。もっと早くから試験をして普及して欲しかった。</p> <p>3. 品質・食味への影響について検討してはどうか。</p> <p>4. 雑草害の研究に発展させていただきたい。</p>				

課題名	温暖化に対応した水稲「朝日、ヒノヒカリ」の良食味栽培技術の確立				
総合評価	3. 7				
	5： 一人	4： 4人	3： 2人	2： 一人	1： 一人
助言・指摘事項等	<p>1. 高温と日照不足の条件下で高品質、良食味の「朝日、ヒノヒカリ」を栽培する技術は、とても重要で、籾数、葉色などの目標値を得たことはブランド化に向けた一歩は築けたものと評価でき、技術を早く普及して欲しい。</p> <p>2. 施肥体系等の残存課題は、後継課題とリンクさせることが重要と考えられる。</p> <p>3. 籾数については下限域が良いとの結論であったが、施肥法などを駆使して穂数、1穂籾数及び全籾数の調節を農家が実施可能なのかを検討する必要がある。</p>				

課題名	白大豆の省力・高品質・安定栽培技術の確立				
総合評価	3. 8				
	5： 一人	4： 5人	3： 1人	2： 一人	1： 一人
助言・指摘事項等	<p>1. 既存のロータリーを使用し、降雨量の影響を受けにくく、出芽、苗立を安定化させる技術は全県下に適用できる技術である。</p> <p>2. 大豆生産の省力化、高品質化、安定化の技術は、概ね達成できたと評価できる。</p> <p>3. 植物タンパク質の重要性は益々高まると予想される。早急な普及を望む。</p> <p>4. 他の研究機関とも共同して、新規ブランド化に向けた取組みを望む。</p> <p>5. すべて大豆圃場（2300ha）に普及可能かを検討して欲しい。</p>				

課題名	小麦有望品種「ふくほのか」の高品質栽培技術の確立				
総合評価	3. 8				
	5 : 一人	4 : 5人	3 : 1人	2 : 一人	1 : 一人
助言・指摘事項等	<p>1. 優良コムギの増産は極めて重要な課題である。高品質化へ向けて着実にステップ・アップするための効率的で省力的な施肥法の開発は極めて重要度の高い課題である。</p> <p>2. 高品質化を目指しつつ、品質劣化を回避するための新品種育成（赤かび病耐病性や低温耐性、短期結実型等）を、他研究機関と共同で進められないか、ぜひ検討願いたい。</p> <p>3. タンパク質含量が麺用としては少なくとも、他の菓子類に利用できないのでしょうか。</p> <p>4. この技術を農家が導入した場合の費用対効果を分析する必要がある。</p>				

課題名	加温マスカットにおける省エネ技術組立試験				
総合評価	4. 3				
	5 : 2人	4 : 4人	3 : 一人	2 : 一人	1 : 一人
助言・指摘事項等	<p>1. 多層被覆と早期保温による省エネ技術を確立し、普及させていることは評価に値する。</p> <p>2. 休眠覚醒技術については、更なる発展を期待する。</p> <p>3. 環境及び経営の両面から見て大変有効な技術で、かつ農家が導入しやすく普及可能な技術と評価できる。</p> <p>4. 普及に当たっては、施設面積当たりの資材費等の経営面でのメリットを一層判り易く示すことが重要であろう。</p>				

課題名	ブドウの新栽培技術の開発				
総合評価	3. 8				
	5 : 1人	4 : 3人	3 : 2人	2 : 一人	1 : 一人
助言・指摘事項等	<p>1. 超密植養液土耕栽培について特許を取得したことは、今後の技術移転のため重要で、評価に値する。</p> <p>2. 養液土耕栽培は省力化技術であるため、その技術の確立は期待できる。</p> <p>3. 一層のブランド化に向けて高品質化、省力化、省エネ化に向けた取組みを促進して頂きたい。</p> <p>4. 早期成園化はできるが経済樹齢が短いため収益性の点で普及の可能性がやや疑問に感じる。経済樹齢の短期化が、農家所得に及ぼす影響を経済的分析する必要があり、直ちに普及することは困難と考えられ、更なる改良を期待する。</p> <p>5. 研究課題名が抽象的で研究内容が分かりにくい。</p>				

課題名	空気膜フィルムによる促成ナス安定生産技術の確立				
総合評価	3. 8				
	5 : 一人	4 : 5人	3 : 1人	2 : 一人	1 : 一人
助言・指摘事項等	<p>1. 空気膜フィルムをハウスに導入することにより、正常収量を維持できる技術を確立したことは、大幅な省エネが可能であり、省エネ資材の購入経費に問題なければ普及は早急に進むと考えられる。</p>				

課題名	スイートピーの日持ち性向上技術の開発				
総合評価	3. 7				
	5 : 一人	4 : 4人	3 : 2人	2 : 一人	1 : 一人
助言・指摘事項等	<p>1. 詳細な要因解析からスイートピー日持ち性の向上のポイントを明らかにしたことは評価できる。各試薬、薬剤との関連についても知見が得られた点は大きい成果であった。成果の普及に取り組むとともに他の花きにも応用させていただきたい。</p> <p>2. 今後は保証可能な技術の確立が望まれる。また、費用対効果にやや疑問を感じるので、もう少し説明が欲しかった。</p>				

課題名	中山間地域における水田畦畔・法面の省力管理技術の開発				
総合評価	3. 3				
	5 : 一人	4 : 2人	3 : 4人	2 : 一人	1 : 一人
助言・指摘事項等	<p>1. 省力化としてセンチピートグラスを導入した際の雑草対策として、薬害のない除草剤を見出したことは意義があり、中山間地域における課題の解決に向けた取組みの一つとして、労働軽減等成果が上がるものと評価できる。しかし、この技術は有効性が既に指摘されているにも関わらず普及・導入はあまり進んでいない。今後は普及可能な技術として現場レベルでの検討も必要ではないか。</p>				

課題名	四季成り性イチゴの安定生産技術の確立				
総合評価	3. 7				
	5 : 一人	4 : 3人	3 : 3人	2 : 一人	1 : 一人
助言・指摘事項等	<p>1. 局所冷却法を行うなどの工夫は大いに評価できる。知財化して活用する取組みを期待する。また、耐病性の違いを6系統で明らかにしており評価できる。夏イチゴのブランド化を目指した取組みとして成果が上がりつつあり、今後の発展を期待する。</p> <p>2. 親株の増殖に加え、市場性も調査し、将来のブランド品種の育種／改良を推進するとともに経済性の面からの分析も行い、本技術導入の有効性を明らかにして欲しい。しかし、品種育成の費用対効果等は評価しにくいのではないか。</p>				